

トイレそうじ【中学年4-(2)】

- 生活と結びつけて考える指導 -

(1) 主題名 働くことの気持ちよさ [4-(2)] 関連項目 [4-(4)]

(2) ねらい 働くことの喜びを知り、進んで働くとする心情を育てる。

(3) 資料名 「トイレそうじ」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 トイレそうじについて、発表する。	トイレそうじは好きですか。 ・きたないから好きじゃない。 ・ぞうきんがいや。 ・あまりやりたくない。	トイレそうじについて思い出し、資料への関連付けをする。 いろいろなそうじ場所の写真を見せる。
展開	2 資料を読み、話し合う。	トイレそうじをしながら、美香はどんなことを思っているでしょうか。 ・トイレそうじは、いやだな。 ・きたないし、たいへんだな。 4年生がそうじをしているのを見て、どんなことを考えているのでしょうか。 ・おばあちゃんがいっていたみたいに、ぞうきんで便器をこすっている。 ・みんな一生けん命そうじをしているな。	トイレそうじの経験を思い起こしながら、主人公の心情に共感させる。
開拓	3 本気でトイレそうじをした後の主人公の気持ちを考える。	ぴかぴかになったトイレを見て、美香はどんなことを思ったのでしょうか。 ・トイレをきれいにすると、気持ちがいいな。 ・きっとこの便器を使う人は喜んでくれるだろうな。 ・また、がんばるぞ。	ふき出しがついたワークシートを配布し、書く活動を取り入れることにより、主人公の気持ちをじっくりと考えられるようにする。
	4 自分たちの生活を振り返って話し合う。	そうじを一生けん命したことがありますか。その時、どんな気持ちでしたか。 ・トイレではないけど、一生けん命そうじをすると、きれいになるから気持ちよかったです。	自分たちの経験を振り返ることで、その時の充実感や喜びに改めて気付くようにさせる。
終末	5 教師の話を聞く。	・今度はトイレそうじをがんばってみよう。	今後への意欲を高めることのできる話をする。

トライアルページ

二年生になつて、トイレやうじをかねむつになつた。

(また、トイレやうじが。) そう思いながら、美香はトイレに行つた。すると、こつもよつと、せつめをとつていてる。

(するいなあ。こつもよつぱかりして。) そう思いながら、ぱづきを持つた。べんきをひかるのだが、ひじくわらと、トイレの水がとびちつてくる。

「わあ、きたない！」

思わずさけんでしまつた。

トイレやうじは、何かと大へんなことが多。しかも、一年生のとなりのトイレだ。トイレットペーパーのおきれたのがぬかにいるがつていてたり、スリップパがバラバラだったり……とくにこやなのは、つそちなど、流していなうとめた。

おばあちゃんは、トイレやうじをしていることを語つたら、「ぞうきんでトイレをひかると、れいにならう」と教えてくれた。

「うへえ。ぞうきんでトイレをひかるの。」

といいやがるわたしに、おばあちゃんは、

「トイレを一生けん命やうじをすると、美しい人になるよ。」

次の日、ぞうじの時間にトイレットペーパーがないのと保けん座に取りに行くと中、四年生がトイレやうじをしてこるのが見えた。なかよしのやうじさんがぞうじをしてこる。

「おっちゃん！」

声をかけたが、気がつかないでぞうじをつづけていた。よく見ると、ぞうきんを持って、べんきをていねいに、何度も何度もがいでいる。四年生はだれも話をせず、一人一人が一生けん命やうじをしているのだった。

「家に帰つて、こつしょに遊んでいたやうだよ、美香は思つてたずねてみた。

「今日、すこしきれいにぞうじをしていたね。トイレをひかると、いやじやないの。」

すると、おち子は当たつ前のように言つた。

「トイレをきれいにするよ。それにね、ぞうきんにこつこつするよ。」れを見ると、こんなにきれいになるんだなあつて思つた。

美香は、すこないなあと感心しながら、明日は本気でトイレやうじをしてみようと思つた。

それじの時間、美香はぞうきんを持つてぞうじを始めた。べんきのまわりを力をこめてふくと、よこれがスッキリと取れた。ぞうきんにはよこれがいつぱいついていて、びつくりした。上から下へとじゅんに、ていねいにふいていった。ぞうきんでふいた後のトロは、ピカピカにかがやいていた。

活用に生かすための実践報告

「トイレそうじ」

1 主題の設定

児童にとって身近な「勤労」とは何か。当番活動、係活動、奉仕活動、家の手伝い等たくさんある。小学校中学年の段階では、働くことの楽しさや喜びの体験を積むことによって、力を合わせて仕事をすることの大切さを理解し、進んで働くとする態度を育てることを目標としている。

本資料では、の中でもどの子も経験したことのある、教師もその姿がよく見える活動として「そうじ」を取り上げた。仕事をする気持ちのよさを中心に扱うことによって、進んで働くとする意欲を育てたい。

2 指導過程の工夫

「トイレ」は、子どもたちにとって身近な場所であるが「きたない」「くさい」というイメージの方が強い。また、「そうじ」についても、当番だから、そうじの時間だからやるといった規則としてのとらえが強い。「トイレそうじ」となると、いやなイメージでとらえる児童はさらに増えるだろう。

その一方でトイレそうじが好きな児童もいる。理由を聞いてみると、トイレをぴかぴかにすることが楽しい、気持ちいいからだという。トイレそうじが好きではないという児童の心の中にも、トイレがきれいな方が気持ちいい、よごれたところが美しくなるとすがすがしいと感じる心がある。そこで、主人公の美香の心情に共感し、寄りそいながら価値を深めていきたい。

3 発問の工夫

導入では、美香と同じようにトイレそうじがあまり好きではないと感じている児童の本音を

しっかり出せるような雰囲気づくりをする。こうすることで、主人公を身近にとらえ、より資料に寄りそえると考える。

中心発問では、「ぴかぴかになったトイレを見て、どんなことを思ったのでしょうか」ということを考える。その中で、トイレを汚いという思いを乗りこえていく美香の気持ちを想像しながら快感を感じさせたい。

生活を振り返る段階においては、より多くの児童に進んで働くことの気持ちよさ、大切さを感じさせたい。そのためにも、トイレそうじだけにこだわらず、学級、学年などで取り組んだ活動などあれば想起させ、力を合わせて仕事をしたときの楽しさ、喜びを思い出させたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

・わたしはトイレそうじが1番きらいでした。だけど、みんなの意見を聞くと「そうじをすると、すっきりする。」「ほかの人や、使う人に喜んでほしい。」と言っていて、進んできたないところをそうじしている人もいるということがわかりました。これからきたないところを進んでそうじしてみたいです。

5 実践者からの一言

トイレそうじは、児童にとっても教師にとっても自分たちの姿を振り返りやすい。それだけに、学級指導にならないように気を付けたい。

中学年になると、トイレそうじを担当することも出てくる。この資料を動機付けとして扱うこともできるだろう。清そう活動等十分取り組んでいる場合は体験を深める場として活用してもらいたい。

（竹尋小学校 小畠千鶴）